

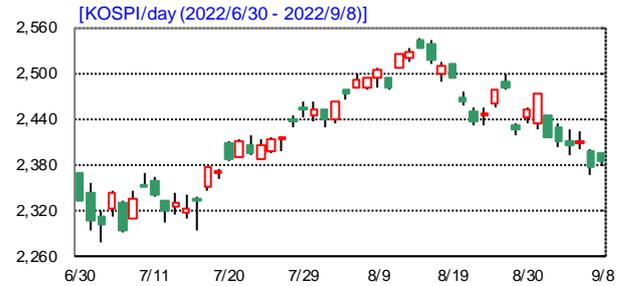


【韓国】 総合指数は週間で1.0%安と4週続落、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.0%安と4週続落。9日が秋夕（チュソク）で休場のため、4日間のみの取引だった。週明け5日は続落し、終値は7月22日以来の安値を更新した。ロシアが欧州への主要なガス供給ルートの停止を継続すると発表し、冬場の燃料不足を巡って不安が広がった。6日は4営業日ぶりに反発したものの、欧州のエネルギー情勢を懸念して上値は重かった。7日は前日比1.4%安と反落。米国の良好な経済指標を受けて積極的な金融引き締めが続くとの見方から警戒感が広がり、終値は7月19日以来の安値水準となった。8日は米株高を受けて反発した。今週は12日が休場。週中に米国の物価統計が発表される予定で、米国の金融政策をにらんで神経質な展開が続くか。国内では16日に8月の失業率が発表される。

▼指数チャート

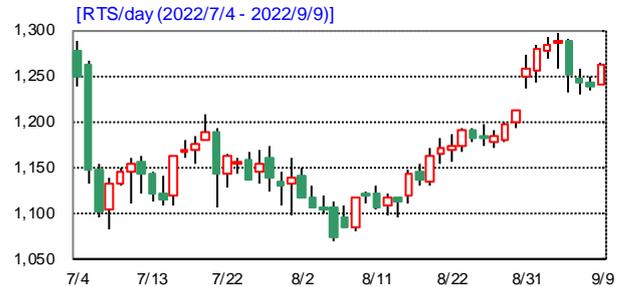


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.7%安と5週ぶりに反落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.7%安と5週ぶりに反落。前週までの上昇を背景に利益確定売りの勢いが強まったほか、友好国の非居住者の売買再開のニュースも売り材料となった。前週に8.6%高と大幅に4週続伸したRTS指数は週明け5日は前週末比0.3%高と小幅に続伸したが、6日は2.7%安と9営業日ぶりに大幅反落し、その後は8日まで3日続落。利益確定売りや原油安に加え、友好国の非居住者による株式売買が9月12日から再開されるとのニュースが売り材料となった。一方、9日は海外株高を受けて2.0%高と反発し、週間の下げ幅を縮めた。個別銘柄では金融のズベルバンク・オブ・ロシアが3.9%安、エネルギーのスルグトネフテガスが3.5%安、ガスプロムが3.0%安となり、指数を押し下げた。今週はもみ合いか。

▼指数チャート

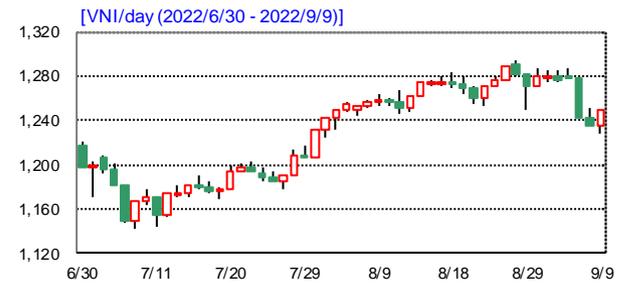


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.5%安と続落、今週は一進一退の展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.5%安と続落。先安観が強まる中、金融株が下落し、指数を押し下げた。4連休明けの5日は取引終盤に銀行株が売られ、指数は前週末比0.2%安。6日はほぼ横ばいとなったが、7日は先安観が強まる中、銀行株が再び売られ、指数は2.7%安と大幅に下落した。8日も売り優勢で0.7%安と続落したが、9日は押し目買いが強まり、1.1%高と3日ぶりに反発した。個別銘柄では鉄鋼のホア・ファット・グループが3.5%、不動産のノー・パー・ランド・インベストメントが3.4%、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が3.1%上昇した一方、金融のSSI証券が7.5%、ベトナム投資開発銀行が7.5%、ベトコムバンクが6.2%、エネルギーのベトナム石油総会社が4.7%下落し、指数を押し下げた。今週は一進一退か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%高、週末の終値は約 5 カ月ぶりの高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 0.9%高と続伸。週初に終値で 7200 ポイント台に乗せると、その後もおおむね堅調な値動きとなった。5 日は前週末に反発した勢いを引き継ぎ続伸。6 日は小幅に上値を広げたが、7 日は前日の NY ダウが大幅利上げの継続に対する懸念から続落した流れで 4 営業日ぶりに反落した。ただ、8 日に金融株が指数上昇をけん引して反発すると、9 日は終値で約 5 カ月ぶりの高値を更新して引けている。今週は 15 日に 8 月の貿易統計が発表される予定で、輸出入額は前年同月比で 2 桁増が続く見通し。先週 6 日に新型コロナの行動制限が一段と緩和されたことによる経済効果にも期待がかかる。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.8%高、今週は 8 月の非石油地場輸出に期待

スレーツタイムズ指数は週間で 1.8%高と反発。おおむね堅調に推移した。週初の 5 日は 7 月の小売売上高が前年同月比 13.7%増と 4 カ月連続で 2 桁の伸びとなった効果などで指数は反発。6 日は続伸した一方、7 日は米国の大幅利上げに対する警戒感の広がりから嫌気されて反落した。ただ、8 日は前日の NY ダウが反発した流れを引き継ぎ買い戻されると、9 日は前日に欧州中央銀行 (ECB) が政策金利の 0.75%引き上げを決定したものの影響は軽微で、続伸して取引を終えている。今週は 16 日に 8 月の非石油地場輸出が発表される予定。外部要因では、中国の 8 月の小売売上高や固定資産投資が意識されそうだ。

▼指数チャート

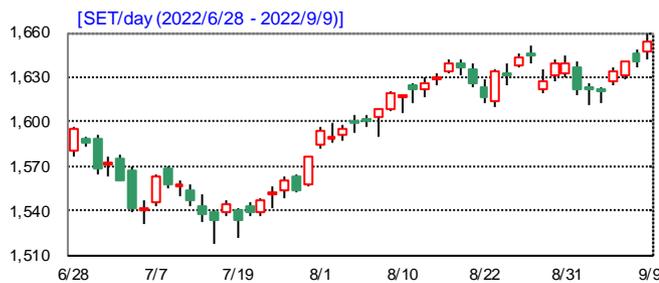


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0%高、OPEC プラスの減産決定でエネルギー株に買い

SET 指数は週間で 2.0%高と反発。じりじりと上値を広げた。週初の 5 日は、8 月の CPI 上昇率が前年同月比 7.9%と高水準が続いたものの影響は小さく、指数は前週末からほぼ横ばい。6 日は前日に開催された OPEC プラスの閣僚級会合で 10 月の減産が決まり、原油価格が上昇したことでエネルギー株が指数を押し上げた。7 日は国内のインフレが上限に達しつつあるとの見方が広がった効果で買われると、8 日は原油価格下落を受けてエネルギー株が売られたものの、テクノロジー株が買われた効果で指数は小幅に上昇。結局、9 日まで 4 日続伸している。今週は 8 月の米 CPI などの外部要因が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%高、中央銀行が 3 会合連続の利上げを決定

クアラルンプール総合指数は週間で 0.4%高と 4 週ぶりに反発。狭いレンジでの値動きが続いた。週初の 5 日は前週末の NY ダウが反落した流れを引き継ぎ、指数は 3 営業日続落。6 日は引け際に金融株が売られた影響で小幅に下値を広げたが、7 日は 5 日ぶりに反発した。8 日は通信株が指数上昇をけん引して続伸。中央銀行は同日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を 2.50%に引き上げた。9 日は 7 月の鉱工業生産が前年同月比 12.5%増と市場予想から下振れしたものの影響は軽微で 3 日続伸している。今週も米国の利上げに関する動向が指数を左右する展開か。16 日はマレーシアの日の祝日で休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。